

心臓病と たたかう

治療研究の最前線②

今年の夏、胸の痛みを訴える六十代の女性が武田病院(京都市)に搬送された。心臓の働きが一割は向上された。心臓の血管が詰まる急性心筋梗塞(こうそく)。直ちにカテーテルで血管を広げる治療を受けた。

患者は京都府医大での治療後、武田病院で約二週間過ごし、退院した。伊藤一貴・武田病院循環器センター部長は「従来

普通はこれで治療を終えて退院を待つが、女性患者は重症で京都府立医科大学に入院。血液から

心臓の働きを正常な状態を採取し、傷んだ心臓に移植する再生医療を受け

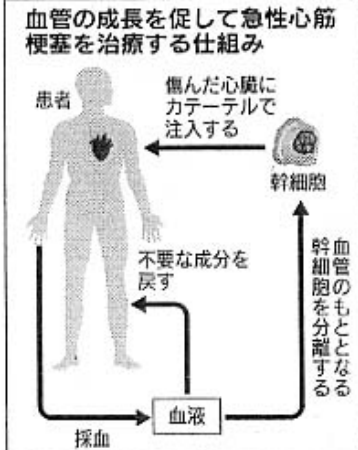
移植する再生医療を受け、心筋梗塞の治療法には

移植する再生医療では血管を作

成長因子を使う。脚の血

血管再生

血中細胞使い 拍動回復



心臓病の再生医療に
取り組む主な機関

主な治療法	機関
血管新生(細胞移植)	阪大、京都府医大、先端医療センター、国立循環器病センター、埼玉医大、信州大、山口大
血管新生(成長因子投与など)	岐阜大、京大医学部
心筋再生	阪大、京大探索医療センター、国立循環器病センター

も動かないからだ。今年九月に一血液を体系に送り出す効率の目安となる数値が二〇から三五%に上がり、一定の効果があった」と発表した。期待が膨らむ再生医療の課題は効果の検証だ。専門家たちが再生医療を呼ぶには力不足だ。移植する細胞や物質がどのように作用して心臓が回復するのかがメカニズムを巡り、議論が再燃している。

京都大学の米田正始教授は「必ずしも移植した細胞が、十分な数の血管や心筋に育つわけではない」と主張。むしろ骨髄などに含まれる成長因子が血管を太らせるとみている。

山口大学の浜野公一教授は「今後は一つ一つの症例の安全性や効果について科学的な検証を積み重ねることが大切」と話している。

(次回は31日付に掲載)